

生駒市の「高山スーパースクールゾーン構想」の小中一貫校に関して検討する小中一貫教育懇話会の初会合が14日夜、高山町の生駒北小であった。早川英雄教育長は、14年度予算編成を見据え、10月末をめどに懇話会の意見をまとめてもらい、その意見に従う考えを表明した。仮に構想通りに進める結論が出た場合でも、新設の一貫校開校時期は、計画の16年4月からずれ込む見通しになった。

懇話会は保護者、自治会、校長、教職員代表ら11人で構成。座長に選ばれた小柳和喜雄・奈良教育大教授が、小中一貫教育の全国の現状や成果、課題などを説明した後、意見交換した。

一方、早川教育長は園舎が築約40年の高山幼稚園は、構想の行方にかかわらず、耐震化のため建て替えが必要との認識を示した。構想では、幼稚園と私立北倭保育園を統合した認定こども園「高山こども園」新設を盛り込んでいる。【熊谷仁志】